

自己評価表

(愛媛県立新居浜特別支援学校)【本校】

学校番号(59)

教育方針	1 生きる力を身に付けるために、学ぶ意欲、豊かな心、健やかな体をバランスよく育む。 2 「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「意欲・人間性」等の資質・能力を育成するために主体的・対話的で深い学びを実践する。 3 一人一人がもつ可能性を伸ばすために、障がいの状態や発達等に応じた指導・支援の充実を図る。 4 自立と社会参加を実現するために、一人一人の学びの連続性の確保に努める。	重点目標	1 児童生徒にとって行きたい学校、楽しい学校を目指す。 2 お互いを認め、協力して活動し、自立を目指す児童生徒を育てる。 3 児童生徒一人一人のニーズに応じた目標を設定し、基礎・基本の定着を図る。 4 一人一人が生き生きと活動する授業実践を目指す。 5 特別支援学校としての地域におけるセンター的機能の充実に努める。
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	分かる・できる・考える授業の実践	○児童生徒が学習の見通しを持ち、「やってみよう」と主体的な行動につながる活動を取り入れ、意欲を引き出し「分かった」「できた」と感じる授業を行う。	A	個別の教育支援計画、個別の指導計画を活用し、授業内容や計画を立案した。 教職員間で支援の方法や教材の準備を行い、それぞれの児童生徒の課題や個々の目標を達成するための授業作りに努めた。	・連絡帳やホームページ、懇談等を利用して、保護者に児童生徒の学習の様子を丁寧に伝える。 ・学年会や学部会等を通して、児童生徒の支援方法について共通理解を図る。
	教材・教具の工夫	○児童生徒が興味・関心を持ちやすく、障がい特性に応じた視覚的に分かりやすい効果的な教材・教具を準備する。	A	児童生徒の実態に応じた教材・教具を準備し、授業で活用した。 行事や学習を新たに展開する際や振り返り学習を深める際にも写真のみならず動画を編集し授業で活用する場面を多く見るようになった。iPadの活用も児童が見比べて学習を深める場面など、使用の方法もバリエーションが増えている。高等部では、個別に電子辞書の活用が広まり、学校でも公用の電子辞書を準備する動きができてきた。	・児童生徒の実態に応じた教材・教具を教員間で工夫をしたり情報を共有する。 ・コンピュータやiPad、プロジェクタ等の機器の操作方法の理解を深め、新しい情報を紹介していきたい。
特別活動	特別活動の充実	○運動会、文化祭、学習発表会などの学校行事や部活動の集団活動を通して、参加や協力による連帯意識を高め、活動の様子を折に触れて紹介し全体への啓発に努める。	C	遠足、運動会、宿泊学習、修学旅行、文化祭、学習発表会(小)等の行事を実施した。児童生徒の実態に応じて綿密に計画し、入念な事前指導を行うなどして、本番当日は楽しく有意義な活動ができていた。 ホームページでの情報開示は昨年度以上に多くの情報を提供できるよう試みた。	・学校行事は今後も児童生徒の実態に応じて計画・実施していきたい。 ・公開行事では、午前・午後など細かく情報交換をした。また、後日、児童生徒の成長を報告したい。
生徒指導	生徒指導の推進	○児童生徒が安全・安心な学校生活を送ることができるよう、全教職員で生徒指導の充実にあたる。挨拶等を通じたより良い人間関係の形成や交通安全教室、防犯教室などを実施し、関係機関との連携を図り児童生徒の実践力の育成に努める。	B	挨拶については、児童生徒、教職員とも意識して行き、気持ちの良いコミュニケーションが図れた。 交通安全や防犯については、関係機関と連携を図り、自分で自分の身を守る知識や意識を身に付けた。	・大きな事件・事故は起こらなかったが、自分の命を大切にすることに関して、警察署等と連携を図り、より実践的な形で学習できるようにしたい。事故処理等について単独通学生指導を充実させたい。 ・児童生徒の安全・安心について、学部間や校務分掌間等のつながりを密にし、事案に対して連絡・報告を素早く確実に対応できるようにしていきたい。
	人権・同和教育の充実	○教職員自らの人権感覚を磨き、人権問題を意識した環境(学級)づくりに努め、児童生徒の出すサインを見逃さずに対応する。人権だよりの発行やいじめ調査、研修会を行い、人権啓発を図る。	B	いじめ調査(年2回)を実施して児童生徒の実態の把握に努めるとともに、人権だより(年2回)の発行や地域交流を通して人権啓発を図った。 校内人権教育研修会では、新居浜南高等学校の高橋先生による講演会「性的マイノリティに関する人権課題」、DVD「そんなの気にしない一同和問題」の視聴により、教職員自らの人権意識の向上に努めた。また、愛媛県や東予地区等の研究大会に参加し、発表資料を教職員や保護者に配付した。	・いじめの早期発見、早期対応するために、いじめ調査の時期を7月から6月、12月から11月に変更する。 ・研修会や研究大会の発表資料等を教職員や保護者に配付し人権啓発を図る。
進路指導	キャリア教育の推進と充実	○保護者と連携して、発達段階に応じた進路支援を行う。学校公開セミナー、合同就職説明会等を実施して、関係機関や事業所との連携や理解を深める。キャリアガイドや実技指導アドバイザーの活用により、ビジネスマナーや技能検定等のスキルの習得を図る。	C	PTA総会では、小学部から高等部まで系統性のある支援について説明し、保護者との共通理解を図った。 学校公開セミナーでは、福祉サービス事業所、関係機関と情報共有が図れた。合同就職説明会では、生徒・保護者が知りたい企業情報が提供されていた。 キャリアガイド、実技指導アドバイザーの活用で、キャリア発達能力の向上が見られた。	・PTA総会や個人懇談を通して、キャリア教育の取組について保護者との共通理解を図る。 ・学校公開セミナーでは、あらかじめ生徒・保護者の知りたい事業所を選んでもらい、必要な情報を得られるようにする。 ・高等部現場実習では、産業科で集団実習先の事業所を1箇所増やして実施する。 ・実技指導アドバイザーは、生徒・教員を対象にした県検定四部門の講師による授業を実施する。 ・進路指導の手引は、保護者が知りたい内容を事前にアンケートし、保護者への配付物の充実を図る。
健康安全	保健教育の充実	○定期健康診断や毎月の身体計測の実施により、児童生徒一人一人の健康状態を把握し、保健教育、保健指導、健康相談の充実を図る。特に体重管理児童生徒については、関係者と連携して実施する。歯科の保健教育についても関係機関と連携して実施する。	B	体重管理児童生徒は14人中、十分な成果が見られ終了した者は1名だった。 歯科保健指導は保健所と連携し4回実施した。全体のう歯保有率は33.1%で5年前の半分以下となった。	・肥満指導については、継続支援の必要性から、今年度の取組を継続していく。定期的に体重の増減を確認し、学期末懇談等を利用して、担任や保護者と連携を図っていく。 ・小1・小4・中1・高2を対象に毎年実施している保健所と連携した歯科保健指導の機会をとらえ、う歯保有者の個別指導の徹底を図り、受診へつなげたり、良い歯磨き習慣の形成を図る。
	安全教育の充実	関係機関と連携し、避難訓練などの体験型学習や実践的な研修を行って共通理解を図る。警報発令時の対応や児童生徒の引渡し方法の通知、ホームページ等による活動紹介を通して、学校安全に関する取組の目的や成果についての情報を発信し、保護者への啓発と理解促進を図る。	C	情報モラル教室や水害対応シミュレーションなどの新たな内容を取り入れ、児童生徒が主体的に学べるよう工夫した。 今年度は学校安全だよりを発行し、気象情報が発表されたときの開校判断基準と対応に関する見直しや個別備蓄品の準備等の情報を発信した。	・今後も訓練の意図を児童生徒が自ら考え、安全な行動を行えるようにする。具体的、実践的で分かりやすい体験型学習を取り入れた安全教育を実施する。 ・引き続きホームページの活用と、学期に1回の学校安全だよりの発行に取り組み、保護者や地域の方への情報発信を通して安全教育への啓発と理解促進を図る。 ・開校判断基準と学校備蓄品の周知徹底と個別備蓄品の必要性の理解促進を図る。

研修	授業力の向上	○研究授業や公開授業などで授業参観を通して研修を深め、より良い授業改善を行う。外部講師等の研修の機会を設け、授業力の向上を図る。	A	<p>初任者、キャリアアップ研修Ⅱの研究授業、授業研究会を年12回行った。一人1回は授業を参観し、授業研究会に参加することで授業実践力が向上した。</p> <p>授業公開では、所感の記入用紙に授業参観の視点を設定することで、より児童生徒の支援や授業改善に生かされた。</p> <p>特別支援教育地域支援事業における外部専門家を活用した研修をはじめ、校内外での研修に積極的に取り組んだことで、専門性の向上が図られた。</p>	<p>・研究授業では、授業の様子をビデオ撮影し、視聴できることを伝える。</p> <p>・授業公開では、参観が難しかった教員に対して、個別に対応し、授業参観が行えるようにする。</p> <p>・研究テーマの実現に向けた研修会を校内で設定し、授業改善、授業力の向上を図る。</p>
	専門性の向上	○学校の重点努力目標を受けて、全校で研究テーマを設定し、各グループごとに計画的に研修を行い、専門性を更に高める。免許法認定講習受講の案内や免許状取得の方法などを紹介し、特別支援学校免許状保有率75%以上を目指す。	B	<p>校内研究は3年計画の1年目である。グループ研修会を毎月実施し、年間で7回行った。外部専門家も活用しながら計画的に研修を行った。グループ研修の記録を全校に回覧することで教職員の共通理解と資質・能力の向上が図られた。</p> <p>免許状取得については、今年度の二種免許状取得者は7名の予定である。また、19名が認定講習を受講しており、免許状の取得、領域追加を目指した。今年度取得予定者を含んだ所有率は78.9%である。</p>	<p>・研究テーマに基づき、「人と関わる力」の定義を明確にし、計画的に研究を進め、専門性の向上により一層取り組む。</p> <p>・免許状取得については、継続して取得したい領域の免許状に必要な単位や条件や取得までの一連の流れを明確にした資料を希望者に配付し、職員朝礼や職員会議を通して免許状取得に関する情報発信を行い、免許状取得者を増やし特別支援教育に関する専門性の向上を図りたい。</p>
	センター的機能の充実	○特別支援学校の専門性を生かし教育相談や情報提供等を行い、関係機関と連携して地域における特別支援教育のセンター的機能の充実に努める。	A	<p>地域からの教育相談の依頼に100%対応した。教育相談の内容は就学や進学に関するものが多かった。本校を就学先の候補に考えられている場合は授業参観などを行い適切な就学になるよう情報を提供した。</p> <p>小・中学校等の教員に対する研修協力機能として、研修会の講師を務めたり、本校で行う研修会を地域に案内したり、地域と合同の研修会を行ったりした。</p>	<p>・地域の学校からの相談内容が多様化しており、依頼に応じた教育相談が行えるよう教員の資質向上に取り組んだり、関係機関との連携を深めたりする。</p> <p>・地域の学校等の現状を踏まえ、ニーズに応じた内容の研修会を数多く実施できるよう努めたい。</p>
学校運営	P T A 活動の活性化	OPTA行事を早目に計画して、理事会で綿密に協議し、実施する。保護者全員がP T A 活動の状況が分かるように理事会記録や座談会報告を配付する。理事会や行事ごとに保護者への積極的な参加を呼びかける。	C	<p>理事会報告・座談会記録を全保護者に配付したり、より多くの保護者の意見を聞くために意見箱を設置したりして、P T A 活動の活性化や学校改善のために努力を行った。</p>	<p>・多くの保護者がP T A 行事に参加していただけるように今年度以上に保護者への声掛けなどを頻繁に行い、保護者同士の繋がりを大切にしていきたい。横の繋がりが大切につつ、学部を超えた縦の繋がりがより深めるような工夫をしていきたい。</p>
	経費の効率的な運用	○児童生徒及び教職員の増加により、設備維持管理費が増加しているため、計画的な経費執行を行い学校全体の快適性を保つ。	B	<p>グラウンド駐車場舗装、本館普通教室エアコン改修工事等を執行し学校全体の快適性が上がるよう努めた。</p>	<p>・来年度も児童生徒及び教職員の増加により、設備維持管理費が増加しているため、計画的な経費執行を行い教職員・保護者と連携をとりながら学校設備の充実に努めたい。</p>

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。